平成 25 年度 8020 公募研究報告書（採択番号 13-1-05）

研究課題：歯周疾患と腎臓病との関係に関する疫学研究～ながはま 0 次コホート事業～

研究者名：園部純也[1)]　浅井啓太[1)]　山崎亨[1)]　家森正志[1)]　高橋克[1)]
中山健夫[2)]　別所和久[1)]
所属：[1)]京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野
[2)]京都大学大学院医学研究科社会健康医学系健康情報学分野

【目的】　歯周疾患と全身疾患の関連が注目され健康維持のために口腔内環境の改善がどのように影響するかが注目されている。腎臓病は、脳卒中や心筋梗塞など突然死のリスクを上昇させる事が報告されており、透析治療など、腎臓病に関わる後遺症やそれに伴う医療費などが問題となっている。慢性腎臓病患者数は、約 1330 万人と推計されており、2008 年度の人工透析患者数は約 31 万人とされており、歯周疾患と同様に罹患率が高い疾患である。腎臓病増悪の原因として歯周疾患や、齲歯など慢性の病巣感染（focal infection）が関係していることが報告され、大きな注目を集めている。しかし、歯周疾患が腎臓病の危険因子であるかは、十分明らかにされていない。また，日本人を対象とした口腔疾患と全身疾患に関する大規模な疫学研究は実施されていない．そこで，今回われわれは，ながはま 0 次予防コホート事業の参加者を対象に口腔疾患と腎臓病との関連を検討したので報告する．

【方法】ながはま 0 次予防コホート事業に参加した 30 歳から 75 歳（男性 2679 人（平均年齢 56.0±13.6 歳）,女性 5442 人（平均年齢 53.3±13.1 歳）を対象に横断研究を行った．腎機能の評価は，糸球体濾過量 GFR の推定値(eGFR)を連続変数として用いた．口腔内に関わる曝露因子として喪失歯数，WHO の CPI プローブを用いた地域歯周疾患指数(Community periodontal Index)，アタッチメントロスを用いた．性別，年齢で層別化し，高血圧，糖尿病，喫煙習慣，身体活動度，血液検査の結果等を調整し解析を行った．

【結果】eGFR はすべての年代で男性が低かった．口腔内の状況では CPI（男性 27.4% 女性 15.8%）や CAL（男性 18.2% 女性 10.0%）が重度の参加者の割合が男性の方が高く、喪失歯数は男性の方が多かった（男性 4.3±7.0 歳、女性 3.2±5.6 歳）。すべての参加者を対象として単回帰分析を行ったところ喪失歯数や歯周病の重症度と eGFR に有意な負の相関を認めた．しかし、年齢を層別した解析では有意な相関は認められなかった．

【結論】年代で層別した解析では有意な相関は認められなかった．本研究は地域住民を対象とした調査であったため，腎機能が低い参加者が少なく口腔疾患との関連が見られなかった可能性が考えられた．慢性腎臓病患者や人工透析患者の口腔衛生が不良である事が報告されている事から、それらの患者に対する口腔管理を推進させる事が必要である。今後はコホート調査や腎機能の低い患者を対象とした調査を実施し，口腔疾患と腎機能との関係を明らかする必要がある．